

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷五第

行發日一月十年六正大

論 說

物價變動ノ原因(一).....法學博士 河上 肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二).....法學博士 田島 錦治

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三).....法學博士 神戶 正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(四).....法學博士 河田 嗣郎

墨子ノ經濟思想(五).....法學博士 小島 祐馬

割地ト村落制トノ關係.....法學士 牧野信之助

現代の保險ノ成立(六).....法學士 小島昌太郎

時事問題

米國ノ參戰.....法學博士 戸田 海市

物價調節ノ意義及効果.....法學士 河田 嗣郎

雜 錄

りすとノ經濟發達階段說.....法學士 本庄榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢.....法學士 山本美越乃

戰後ノ太平洋定期航路.....法學士 小島昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ.....法學博士 神戶 正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(七).....法學士 高倉 輝

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ.....文學士 長壽 吉

各國ニ於ケル物價騰貴 ノ趨勢

山本美越乃

近時我が國ニ於テモ物價ノ騰貴ニ苦シムノ聲漸ク大トナリ、從テ政府モ之ヲ默視スルコト能ハズシテ、多少其ノ機ヲ逸シタルノ嫌ナキニ非ザルモ兎ニ角國民ノ生活上及産業上ニ缺ク可カラザル或種ノ貨物ニ對シテハ價格ノ暴騰ヲ抑制セントスルノ方針ヲ執ルニ至レルハ、其ノ實際的效果ノ如何ハ姑ラク之ヲ措キ、刻下ノ方策ト

シテハ寧ロ當ヲ得タルモノト稱セザルヲ得ズ、唯我が國ノ物價ノ騰貴ハ歐洲諸國ノ夫レト異ナレル特質ヲ有スルガ故ニ、單ニ歐洲諸國ニ行ハルル生活費ノ嵩加ニ對スル防止策⁽¹⁾ノミヲ模倣シテ之ヲ救済セントスルモ得ベカラザルナリ。物價騰貴ノ原因ハ固ヨリ二三ニシテ止マラズト雖ドモ、歐洲諸國ニ於ケル現在ノ物價ノ騰貴ハ、海上ノ封鎖又ハ航通ノ危險ニ基ク輸入ノ困難、運輸機關(特ニ船舶)ノ不足從テ運賃ノ不廉、國內ニ於ケル生産力ノ減退等ノ諸種ノ事情ノ爲メニ貨物ノ供給ノ不足セルコトハ之ガ最大原因ヲ成シ、然カモ是等ノ事情ハ一トシテ殆ンド不可抗力的ノ性質ヲ有セザルモノナキニ拘ハラズ、我が國ノ物價殊ニ國民ノ日常生活ノ必需品ノ價格ノ騰貴ハ、主トシテ通貨ノ膨脹、運輸機關ノ不足ニ基ク運賃ノ昂騰、奢侈の消費ノ増加、一般商工業界ノ活躍ニ伴フ賃金ノ騰貴等ニ原因シツツアルモノノ如シ、然カモ是等ノ原因中吾人ノ目シテ以テ主要ナルモノナリトナス通貨ノ膨脹ノ如キハ、政府ノ方針如何ニ依リテハ

(1) 經濟論叢第二卷第四號六一四頁以下拙稿参照

或程度迄ハ之ヲ緊縮シ得ルモノニシテ、決シテ不可抗力のノ性質ヲ有スルモノニ非ズ、又第二ノ運輸機關ノ不足ニ基ク運賃ノ昂騰ノ如キモ、我が國ノ事情ハ全ク歐洲諸國ニ於ケルト異ナリ、彼ニ在リテハ全力ヲ傾倒シテ運輸能力ノ増加ヲ計リツツアルモ尙ホ其ノ不足ヲ告グルノ狀態ニ在ルニ拘ハラズ、我ニ在リテハ船主等ハ專ラ自己ノ利益ノ打算上ヨリ、或ハ船舶ヲ建造シテ之ヲ外國ニ賣却シ、或ハ高率ノ傭船契約ノ下ニ他國ノ利用ニ供センコトニノミ汲々タルヨリ左ナキダニ戰時貿易ノ旺盛ニ伴ヒ船腹ノ不足ヲ感ジツツアリシ海運界ハ、一層其ノ不足ニ苦シムニ至レルモノナルガ故ニ、是亦決シテ不可抗力のノモノト稱スルヲ得ズ、第三ノ奢侈的消費ノ増加ニ關シテハ、固ヨリ極力之ヲ防止セザル可カラザルヤ勿論ニシテ、決シテ其ノ自由ニ放任スベキニ非ズ、唯第四ノ一般商業界ノ活躍ニ伴フ賃金ノ騰貴ニ至リテハ、之ヲ如何トモスベカラザル事情アリ、然レドモ單ニ此ノ原因ノミヲ以テハ、假令物價ヲ騰貴セシムルモ其ノ影

響ハ現今ノ如クニ甚ダシカラザルベシ。

要スルニ我が國現時ノ物價ノ騰貴ハ寧ロ前掲第一乃至第三ノ原因ニ負フ所大ニシテ、然カモ是等ノ原因ハ就レモ或程度迄ハ國家ノ政策ノ如何ニ依リテ人爲的ニ之ヲ制限シ得ベキ性質ノモノタリセバ、我が國民ノ日常生活ノ必需品ノ價格ノ調節ハ、歐洲諸國ニ於ケルガ如ク單ニ物價其ノモノノ騰貴ニ對スル防止策ノミヲ以テ足レリトセズシテ、更ニ其ノ原因ニ溯リテ之ヲ救濟方法ヲ講ズルノ必要アリ、換言セバ我が國ノ物價騰貴ノ調節策ハ、少クトモ其ノ基礎ヲ以上ノ三大原因ノ排除ニ置カザル可カラズト信ズ、然ラズンバ物價ノ調節ハ徒ラニ其ノ聲ノ大ナルニ拘ハラズ、其ノ實ヲ收ムルコト能ハザルニ終ラン。

參考ノ爲メ近時吾人ノ接手セル資料中ヨリ各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢ヲ摘示セバ左ノ如シ英國 昨一九一六年十二月一日ノ重要食料品ノ小賣價格ヲ、前年即チ一九一五年十二月一日ノ價格ニ比較スル時ハ平均二割九分ノ騰貴ヲ示シ、肉類ハ二割乃至二割五分、馬鈴薯ハ倍

額以上、粒狀糖ハ四割、鶏卵ハ三割五分、ちーすハ三割ノ騰貴ヲナセリ、更ニ一九一四年七月以後一九一六年十二月一日迄ニ重要食料品ノ價格ノ騰貴シタル割合(百分率)ハ左ノ如シ。

品目	五萬人以上ノ人口 ヲ有スル大都市	小都市及村落
牛 肉 (甲)	六六・〇	六六・〇
牛 肉 (乙)	五九・〇	五九・〇
羊 肉 (甲)	六〇・〇	六〇・〇
羊 肉 (乙)	五八・〇	五八・〇
魚 類	五八・〇	五八・〇
小 麥	一〇七・〇	一〇七・〇
麵 粉	八〇・〇	八〇・〇
茶 包	七六・〇	七六・〇
粒 狀 糖	五二・〇	五二・〇
牛 乳	一三・〇	一三・〇
牛 酪 (甲)	一七・〇	一七・〇
牛 酪 (乙)	六八・〇	六八・〇
ちーす	六六・〇	六六・〇
まーがりん	三三・〇	三三・〇
鶏 卵	七九・〇	七九・〇
馬 鈴 薯	一七・〇	一七・〇
獨逸	一九一・〇	一九一・〇

シ。(1)

小麥麪包	四六・九	小麥粉	三二・八
牛 酪	〇五・八	豚 脂	三三・六
牛 糖	三六・〇	鶏 卵	三三・一
砂 糖	四四・五	牛 肉	一八・四
牛 乳	一四・七	犢 肉	一〇・九
羊 肉	一七・九	馬 鈴 薯	五七・五
豚 肉	二四・〇		

以上ノ他更ニ數種ノ食料品ヲ加フル時ハ、同年間ニ於ケル食料品ノ價格ノ騰貴ハ平均十割九分餘ニ相當ス。

佛國 昨一九一六年十月ノ佛國統計局ノ報告(2)

ニ據レバ、巴里ヲ除キ其ノ他ノ人口一萬人以上ノ都市ニ於ケル住民ノ平均生活費ハ、一九一四年(七月ヨリ九月ニ至ル三箇月間ノ平均額ヲ基礎トス)ニ比較スル時ハ、昨一九一六年(同期間)ニハ四割一分ノ増加ヲ示セリ、此ノ計算ハ各戸日常ノ消費ニ供セラルベキ十三種ノ貨物ノ小賣價格ヲ繼續的ニ研究シテ得タルモノナリト云フ。(3)

澳太利 昨一九一六年十一月二十六日ノ維也納勞動新聞ノ調査ニ據レバ、同年同月ノ同市ニ

(1) Board of Trade Labor Gazette for Dec. 1916.
 (2) Bulletin de la Statistique Générale de la France.
 (3) Monthly Review of the U. S. Bureau of Labor Statistics. Vol. IV, No. 2, p. 246.

於ケル重要食料品ノ價格ヲ以テ、之ヲ一九一四年七月ノ價格ニ比較スル時、平均十七割七分ノ騰貴ヲ示シ、尙ホ前年即チ一九一五年十一月ノ價格ニ比較スルモ平均二割五分ノ騰貴ヲ示セリ。(左表參照)⁽¹⁾

品目	一九一五年十一月ノ價格ニ比較シテ騰貴セル割合	一九一四年七月ノ價格ニ比較シテ騰貴セル割合
牛 肉	三・七	三・五
豚 肉	三・三	三・九
ベーコン	四・二	四・〇
牛 乳	一・一	四・三
牛 脂	一・五	四・六
牛 酪	二・〇	七・五
牛 酪	四・五	一八九
小 麥	三・一	五〇・八
小 麥	八・一	五〇・〇
小 麥	六・三	一六・七
小 麥	二・二(下落)	六・九
小 麥	六・七	三・八
馬 鈴 薯	三・一	三・七(下落)
豆 類	二・〇	三・九
砂 糖	一・三	二・一
伊太利 重要食料品七種	一九一二年ニ於ケル平均小賣價格ヲ一〇〇トシ、一九一五年及同一六年十月ニ於ケル是等ノ食料品ノ價格ノ騰貴	

雜 錄 各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢

ノ割合ヲ示セバ左ノ如シ。⁽²⁾

品目	一九一五年十月	一九一六年十月
小 麥	一二・六	一〇・六
小 麥	一三・九	一一・三
小 麥	一六・二	一七・四
小 麥	一三・一	一七・八
牛 肉	二・八	一六・一
豚 肉	一〇・五	一三・〇
牛 乳	一〇・八	一三・〇
食 油	一〇・八	一三・〇
和 蘭 昨一九一六年十一月ノ和蘭統計局報ハ重要食料品二十九種ニ就キテ一九一三年以後一九一六年十月ニ至ル迄ノ價格ノ變動ヲ示スモ、其ノ内主要ナルモノヲ摘錄セバ左ノ如シ。 ⁽³⁾		

品目	一九一三年	一九一四年	一九一五年	同一年(十月)
わいさみーる	一〇・一	一〇・一	一・七	一・七
ちいす	一四・四	一四・四	一・六	一・六
小 麥	一三・三	一三・三	一・七	一・七
小 麥	一三・三	一三・三	一・七	一・七
小 麥	一三・三	一三・三	一・七	一・七
牛 乳	一三・三	一三・三	一・七	一・七
米	一三・三	一三・三	一・七	一・七
砂 糖	一三・三	一三・三	一・七	一・七
粒 糖	一三・三	一三・三	一・七	一・七
茶	一三・三	一三・三	一・七	一・七
鹽	一三・三	一三・三	一・七	一・七

右表ハ一九一三年ノ平均物價指數チ一〇〇トシ、之ト比較シテ其ノ高低ヲ示セルモノナリ。

第五卷 (第四號 一三三) 五九五

(1) Monthly Review of the U. S. B. of L. S., Vol. IV, No. 2, p. 245.
 (2) Ibid., p. 249.
 (3) Ibid., p. 250.

米國 米國ニ於テモ過去數年間生活ノ必需品殊ニ食料品ノ價格ノ騰貴著シク、昨一九一六年ノ價格ヲ以テ一九二二年ノ價格ニ比較スル時ハ、馬鈴薯ノ如キハ十二割ノ騰貴ヲ示シ、小麥粉ハ六割六分、豚脂ハ三割七分、牛酪ハ比較的價格ノ動搖少ナカリシト雖下モ尙ホ九分ノ騰貴ヲ示セリ、今重要食料品ノ最近二箇年間ノ價格ノ變動ヲ表示セハ如ノ如シ。⁽¹⁾

品	目	一九一四年	一九一五年	一九一六年
茶	右表ハ一九一五年ノ平均物價指數ヲ一〇〇トシ、之ト比較シテ其ノ高低ヲ示セルモノナリ。	100	100	100
穀	狀	100	100	100
馬	鈴	100	100	100
米	麥	100	100	100
小	粉	100	100	100
麴	包	100	100	100
牛	乳	100	100	100
牛	酪	100	100	100
雞	卵	100	100	100
罐	鮭	100	100	100
家	禽	100	100	100
豚	脂	100	100	100
は	む	100	100	100
べ	ん	100	100	100

釀テ我カ國ノ物價ノ變動如何ヲ考察スルニ假
 リニ大正二年一月末ノ平均物價指數ヲ一〇〇ト
 セバ左ノ如シ。⁽²⁾

品目	大正二年十二月末	大正三年十二月末	大正四年十二月末	大正五年十二月末	大正六年六月末
穀物	九・三	九・二	九・二	一〇・三	一四・四
其他食物	九・四	八・五	九・五	一一・〇	一〇・四
食料品	九・七	八・〇	一〇・九	一二・一	一五・六
纖維原料及雜品	九・七	一〇・九	一二・九	一三・一	一五・九
金屬類	九・一	一〇・七	一二・四	一四・三	一五・一
雜品	九・一	一〇・七	一二・四	一四・三	一五・一
總平均	九・二	九・〇	一〇・一	一一・一	一四・二

以上ノ諸表ヲ綜合シテ觀察スル時ハ、一九一四年乃至一九一六年間ニ各國ノ重要食料品ノ價格ノ騰貴ノ割合ハ、奧太利約十八割、獨逸約十一割、英國約八割五分、和蘭約七割、佛國約四割、米國約二割二分（伊太利ハ一九一五年乃至一六年ノ一年間ニ約四分）、我が國ハ同期間ニ穀物ニ於テハ約五割其ノ他ノ食料品ニ於テハ約三割ノ騰貴ヲナシタルモノト言フヲ得ベシ、固ヨリ此種ノ統計的ノ調査ハ何レノ國ニ於テモ完全ヲ期スルコト頗ル難ク、又各國其ノ調査及對照ノ基礎等ニ關シテモ一樣ナラザルガ故ニ、之ヲ

(1) Monthly Review of the U. S. B. of L. S., Vol. IV, No. 2, p. 241.

(2) 東洋經濟新報本年八月五日號參照

唯一ノ材料トシテ物價問題ヲ比較論評センハ
未ダシト雖トモ、大體ニ於テ現今世界的共通經
濟現象ノ一タル物價騰貴ノ大勢ヲ窺フノ一資料
トナスハ妨ゲナシト信ズ、昨一九一六年末以後
物價ハ更ニ騰貴ノ趨勢ヲ示シ、殊ニ我が國ニ於
テハ其ノ傾向一層甚ダシキモノアリト雖トモ、
一二ノ國ヲ除ク外ハ最近時ニ至ル迄ノ各國ノ資
料ヲ缺クヲ以テ、之ガ比較ハ更ニ後日ヲ期セン
トス。